

# ものづくりに挑む子どもたち

## 25周年を迎えたひたちなか青少年少女発明クラブ



クランク走行マシン、さあうまく走るかな

11月16日(日)、昭和59年に産声をあげた青少年少女発明クラブの設立25周年記念式典が行われました。これまで延べ千人の子どもたちがこのクラブから巣立っていきました。県発明工夫展、全国発明工夫展、ものづくり体験教室全国大会などで多くの受賞者を輩出しています。昨年、東石川小プレハブ教室から明るい北校舎3階の教室に活動場所を移し、小学3年生から中学2年生まで会員61名が年間35回程度活動しています。

初めて入会した子どもたちは、道具を安全にうまく使うことを覚えることから始まります。春の竹林教室では自分で小刀を使い竹はしや食

器をつくり、竹筒で作った竹の子ご飯や竹筒ようかん、炭焼きコーヒーを味わいました。基礎工作教室では指導員から曲尺、のこぎり、かんなどの使い方をていねいに教わり、指導員が見せてくれる「おもしろ科学工作」の体験活動などを通して少しずつ道具使いに慣れていきます。そしていよいよ自主課題工作に取り組みます。何を作るのか自分なりに考え、図や文に書き、指導員に相談し、考え方や図を直して作品を作ります。うまくいかないところは、何度も考え直し、指導員に相談して工夫します。この一度や二度の失敗にくじけず、完成まで何度も挑戦することが大事なことで指導員は教えています。また指導の方針は、「まず子どもの発想を尊重すること。自主的に活動できるよう見守ること。」これに尽きますとお話いただきました。



みんなで協力しながらの作品作り

このクラブの指導員として子どもたちを支えているのは、長年学校で教えてこられた教員OBや、企業でものづくりに携わった技術者OB等の方々

です。きらきらした瞳で、科学の疑問をぶつけてくる子どもたちを柔和な笑顔で指導していらっしゃいます。また、これまで、工場見学や材料の提供、技術的な支援、経済的な援助など、市内の多くの企業や団体のご協力やご配慮

をいただいで活動を続けていくことができました。

これからも、地域の人々や企業に支えられ、いろいろな年齢の子どもたちが集まって、さまざまなものを作りながら、自分で考え粘り強くものを作り上げることの大切さや完成した時の喜びを味わいながら、自立した心や創造力を身に付けて、未来を切り開いてほしいものと思います。

### ● 代表者の声 ●



やぎゅう おさむ  
柳生 修さん

科学や技術に興味を持つ子供たちが、決して少なくないことに意を強くしています。ナイフやドライバーなどの工具を使って、何かしら作品を作ることは、創意と工夫の基礎を成すものです。クラブ活動では、しっかりと基礎を指導し、それ以降の発明品のアイデアは、子供たちの自主性に任せ、できるだけ手を出さないよう心掛けています。活動を通して、根気強さと独自の発想を伸ばすためのお手伝いができればと考えています。